

件名	令和7年度 福井市障がい者自立支援協議会 第2回 居宅生活支援部会 議事録		
日時	令和7年8月14日(木)10:00~11:30	会場	福井市市役所第8会議室 B
欠席者	竹澤氏		
傍聴者	2名		
報告事項 協議事項	1. 報告事項 (1)福井市障がい者自立支援協議会の体制見直しについて 資料1 2. 協議事項 (1)各ワーキンググループの進捗状況について ・地域理解促進・災害 WG について 資料2 ・余暇支援冊子・移動 WG について 資料3 ・親亡き後の WG について 資料4		
報告 質疑意見等	1. 報告事項 (1)「福井市障がい者自立支援協議会の体制見直しについて」 説明:城戸氏 資料1 【水野氏】 ・下から2番目の箇所(個別調整会議)について、説明を求める。 【城戸氏】 ・令和7年度までは個別調整会議から出た地域課題と思われることを相談ミーティングへ、そして運営会議に、という流れであったのを、もう少しシンプルに吸い上げていこうという事である。 【水野氏】 ・障がい福祉課の役割については、いかがか。 【城戸氏】 ・個別調整会議には全く関係しないわけではないが、基本的には委託や事業所が主催するもの。専門部会については、引き続き事務局として対応予定。 【水野氏】 ・メリットが見えづらい。何がメリットか分からない。 【橋本氏】 ・地域生活支援部会は二つの部会を合わせることに、居宅生活支援部会は医療も含まれているが、どんな風になるのか。また経緯を知りたい。 【城戸氏】 ・2つの部会で重複している課題がみられ、障がいを持つ方が地域で暮らしていくことを考えると、一緒に考えていける課題もあった。取組自体が重なる部分もあり、協議をより進めやすくするイメージで考えており、部会のほかに、ワーキングを作っていくといった進め方ができればと考えている。 【吉村氏】 ・運営会議でもこの話は出ており、なかなか地域移行が進んでいかないという事実がある。ただ、当事者団体が入っているのは唯一ここだけ。ここに書いてあるのはあくまで案なので、意見が欲しい。県立大学の坂口先生からは、それぞれに必要な部会ではないか、という意見も出されている。 【長谷川氏】 ・一緒になることの不安はある。人数によっては範囲が広がる、内容や回数の大変さも見えてくる。生活は大事で暮らしが落ち着いてから、就労になると思う。 【水野氏】 ・地域移行が進むならいいが、人数も増えるので、障がいの特性に分かれたワーキングでもい		

<p>報告</p> <p>質疑意見等</p>	<p>い。精神の生活支援については国の恩恵がない。福井市独自でもらえるぐらいのワーキングになればいいと思う。</p> <p>【北山氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒になるのは賛成。理由としては地域移行・定着は、地域での生活というところで地続きの課題であり、施設から地域に出るには、地域が安心出来ないと出ることができない。段階的に課題を検証していくのはやるべきことではないか。人数や構成やどのようにやっていくかの課題はある。 <p>【大角氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会がしっかり分かれていて、何をすることが細かく書いてあるのは分かりやすい。それぞれに何をしていくかがはっきりした。この組織図の自立支援協議会の上の部分、福井市民からの声が漠然とした矢印。もう少し何か、どうなってどうなるというのが明確になると良いなど思った。 <p>【部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の中で質問が出たのは、福井市民からの声だけ来ていて、自立支援協議会からも市民にフィードバックする矢印はあるべきではないかという意見も出たので、併せて運営会議の方で話し合っていく。 <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 各ワーキンググループの進捗状況について</p> <p>○地域理解促進・災害 WG について 資料2-1 資料2-2</p> <p>説明:黒田氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG では昨年度使用した研修資料のブラッシュアップを行い、資料 2-2 に書かれているような形にまとめた。今後依頼内容に合わせて研修の方の意見を適宜ブラッシュアップしたり、修正を加えたい。 <p>【北山氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の依頼状況と発信予定を知りたい。 <p>【黒田氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員、自治会にも周知していく方向性である。 <p>【部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知は検討段階、地区の方からは部会へ電話待ち状況、民児協には会長会で依頼した。 <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は民生委員が集まる場所で、部会長がチラシで説明をした。福祉委員への周知については社協と連携し、具体的なことは相談していきたい。 <p>【大角氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの資料を見て合理的配慮について、「障がいがあっても」と表示されているが、「障がいがあってもなくても」というように、子供から高齢者も含めて、言葉の表現の検討をして欲しい。 <p>【部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別な人ではない、合理的配慮、家族の思い、気にかけて欲しい」等のワードを含めて、たたき台の意見を言って欲しい。 <p>【北川氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容については分かりやすい。少しでも地域住民に深まるといいが、民生委員、福祉委員に推進していくだけではまだまだ対象範囲が狭いと思う。他人事でない・誰もが住みやすい地域を目指すのが目標だが、広い分野に講義を進められるといい。 <p>【宮永氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的には自治会長にも周知して欲しいと思っている <p>【部会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会も積極的な所と違う所があるので、市役所に情報をもらい、検討して欲しい。 <p>【水野氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所は、各会社の社長が集まるイメージがあるので、企業の方でもトップダウンでして
------------------------	---

<p>報告</p> <p>質疑意見等</p>	<p>もらうのも必要ではないか。部署は商工労働部になるかとは思ふ。昼間は従業員は会社に所属しているので、働きかけをぜひお願いしたい。</p> <p>○余暇支援冊子・移動 WG について 資料3-1~3-4</p> <p>説明：坪田氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-4 は、22 の団体にワーキンググループのメンバーが声をかけて、掲載承諾を得ている。ここに載ってないが、福井新聞社の文化センターにもアポイントを取って、合理的な配慮の視点も含めて話をしてきた。現状は文化センターでのイベントにも発達障がいの方や身体障がいの方が既に何人かは参加している状況だが、合理的配慮の面では不足している部分が多い状況ではある。しかし、障がいあるなし関係なく、こういうことをしてみたいということには応えられるようにしていきたいとの事だった。個別に色んな配慮を考えていくので、これに載せてもいいと言われた。なので、これも含めて今現在は 23 の団体の掲載ができることになっている。 他には 3 団体は未確認だが、イメージとしては 26 団体前後と思っている。 ・前回の冊子掲載内容と違うところは、前は障がい者の活動団体が中心ではあったが、誰でも参加できるのが、新聞社の文化センターも含めて 5 団体ある。新しく「居場所」という形での掲載受諾が 2 団体。前回とは内容が少し広がっている状況である。 ・移動の課題については、掲載候補団体からの資料を基に検討していく。 <p>【丸山氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内の資料について、冒頭2行目のタイトルが長く、文章が続いていることについて、例えば「障がいのある方の余暇活動紹介冊子の発行協力依頼」といったものにしたら、1行で済むかなど。 <p>※その他、障がいの標記の仕方や駐車場の記入について、助言。</p> <p>【橋本氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26 団体に増えてきたのはいいと思うが、自助グループももっと入ってきていいのでは。引きこもりや、摂食障害のグループに聞いてもいいか。 <p>【城戸氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能。掲載可能ならば市へ連絡してもらってもいい。 <p>【北川氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助グループが入るかどうかが検討になる。グループ自体に、ここに載せることの意味確認も必要。医療的な立場では、自助グループは、治療的な観点でとても大事な役割。自助グループに携わっている患者、代表の方が病院の窓口チラシを持ってくるとか、県のサポートなどの一覧表の中に自助グループの情報があるだけなので、誰もが手に取って、こんな活動がある、こんな自助グループがあるという発信を、医療機関にも出来るならとてもありがたい。 <p>【北山氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある、なし関係なくというサークルが掲載されていることはいいことだと思った。文化芸術に関係する方と雑談することがあり、福井は遅れていると言われた。車椅子の彼がバンドを結成してるが当たり前になっている。これから先、いろいろ皆で考えていきたい。移動は今年で解決するのは難しい。次年度に向けての課題抽出みたいなイメージでよろしいか。 <p>【坪田氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動は答えを出すのは難しい。道筋は明確にしたいが、来年度持ち越しとなるかと。 <p>【石森氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日、地域の人とイベントをしている。活動の聞き取りがあってもいいのでは。 <p>【中村氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に参加できるものがあるといい。来たはいいが、帰りについて手段がない課題がある。 <p>【宮永氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的には公開はホームページにアップとか、冊子作成なのか、配布についてはどのように考えているのか。
------------------------	---

報告	<p>【城戸氏】 ・周知は詰めていく必要がある。広く周知できるといいとは思っている。</p> <p>【部会長】 ・予算がついていないが、来年度はつくのか。ホームページでも分かりやすい所にアップするのか。印刷なら来年度予算をつけるなら、どこに欲しいか。</p> <p>【宮永氏】 ・障がい福祉課の窓口と、障がい団体の所に2ヶ所検討して欲しい。</p> <p>【橋本氏】 ・以前は紙で写真もあった。4～5冊地域活動支援センターでもらったことがある。相談支援専門員などが余暇を勧められたらいい。</p> <p>【中村氏】 ・余暇グループに自助グループが入る事はいい。治療の役割にもなる。情報が管理者代表に個別に配布か、県のホットサポートとかもいい。医療機関にも配布してもらおうと有難い。</p> <p>○親亡き後のWGについての報告 資料4—1～4—2</p> <p>説明：黒田氏 ・ワーキングのメンバーからフローチャートの完成時期の目処がいつ頃が良いか、完成した時の提示ツールとか、予算の件、フローチャートをどこに配るか等の意見があった。チャートの完成時期については、可能であれば今年度中に、ある程度の目処を立てる。完成した後の提示ツールは、予算をつけることを前提という事ではなく、例えばホームページへの記述、QRコードでの提示が出ている。</p>
	質疑意見等

・ターゲットは当事者 1 本でいいのではないか。当事者向けに、冷蔵庫に貼れるような簡潔な電話番号と QR コードが良いと思う。

【黒田氏】

・よりわかりやすく、使いやすい。当事者向けといっても、どの年代をターゲットにするかという問題がある。

【部会長】

・ワーキングチームだけで決めると言うものではない。ブレるなら検討が必要。

【大角氏】

・フローチャートを見た時に、「困った、どうしよう」がスタートなのでモヤっとする。「こんなものやりたい、できるかな」という目標や希望も入れることで、見る人の思いや、先に繋がる部分が明確になると思う。入り口の表現を全年齢で使えるようにするのも良い。若い方は「こんなことやりたい」、親御さんは「困った、どうなるんだろう」という不安を整理できるような表現が良い。「困った、どうしよう」がスタートではなく、「やりたいな」などもスタートとして、年代によって変わるかもしれない。何に繋がるかは同じではないか。入り口の部分のニュアンスで選択肢があるといいのでは。

【宮永氏】

・ワーキングチームの当事者だが、知的障がい者の本人は自分の意思を伝えられない、理解できていない場合もある。当事者といっても、家族や保護者になるわけで、本人にはそんなことを考える力がないので、親亡き後、お金、住まい、仕事、支援のことなどが頭の中をぐるぐる回る。どこに行けばいいのかが分かるような資料があるといいという思いでワーキングに参加していた。

【北山氏】

・このような色々な意見を伺いたいところ。予算があるような形にしたいので、ターゲットにこだわりすぎているわけではない。私は思想的にゴールから逆算して考えるので、やっぱり予算というところで、これがどういう形で出るというところがないと逆算して考えられない。

【北川氏】

・フローチャートができればいいなというイメージと、既存のこどもの冊子と福祉関係の手引きがあるが、その使いづらさを当事者目線に捉え直して、当事者の方が自分の知りたい情報を得られやすくするためのフローチャートを作っていく事の見解はまとまっている。ターゲットになってしまうが、住民や当事者の方に配布していいのか。行政としても当事者としても、根底に何かこう揺るぎない土台があると進めていけるが、土台が曖昧なままに、ワーキングだけで頑張っている。当事者の意見を聞きたいと思っている。

【城戸氏】

・予算の確約については私から伝えられない。今皆さんにお願いしたいのは、予算がないという前提で、どこまでできるかの検討をお願いしたい。QR コードであったり、紙の印刷、ある程度のものであればこちらで対応は出来る。

【水野氏】

・これは生命にかかわることではないか。憲法 25 条とか生活に並ぶもの。予算は多額ではない。そこは障がい福祉課の方が頑張るべきだと思う。これは生命に関わることと認識した上で上に挙げて頂きたい。

【竹内氏】

・各委員の意向も理解しつつ、重要であることも認識する中で、必要な予算については障がい福祉課として検討していきたいと思っている。しかし、申し訳ないが、最終的に、市全体の予算の中でどこまで対応できるかは、この場で明言できないので理解願いたい。意見や要望はきちんと受け止めた上で、必要に応じて上に挙げていきたい。いろんな議論の中で、こういったものが必要という部分があれば、現段階としては受け止めた上での対応になる。

【橋本氏】

・一回で完璧なものが多分できないかと思うので、まず作る事が大事なのかなと思う。部会としては、当事者にも分かりやすいものがないかのバックアップをしてもらえるか？ 予算をつけてくれと言うよりは、必要性を一緒に感じてもらいたいと訴えたいのではないか？

【北山氏】

・それはそうだが、どういうプレゼンをしたら予算をつけてもらえるのか？

【竹内氏】

・予算の話を上挙げていくのも一つだが、後は予算がない中で、効果的にどう伝えていけるかを検討していきたいと思っている。当然予算のこともあると思うが、少しでも予算をかけずにできる所からまず取り組みをしていく、ホームページで予算がない中で、出来る部分でやるとか、意見、提案という形でお願いしたい。

【大角氏】

・「こどもはぐくむブック」に協賛企業が入っている。このしくみを応用出来ないか。

【坪田氏】

・「障がい者福祉施策の手引」を見ているか。持っているか。(会場からの返答無し。)
皆のものになっていないという現実がある。冊子として印刷製本しているのでお金もかかっていると思う。皆が手に取りやすいものに変えていくという視点で、取り組んでいけると有難い。こども部会もお金がない。就学相談でも QR コードのページを印刷して置いている。直接スキャンして貰ってもいいといった形で、皆が手に取れるようにするというやり方もある。

【北川氏】

・困りごとではなくて、こんな風になったらいいといった、ニーズというところを視点にフローチャートという部分の発想が良かったと思った。それでいくと、今作ろうとしているその冊子にもリンクさせられるようなフローチャートになっていけたらいいなと思った。

【宮永氏】

・例えば福祉の冊子の 1 番最後に、そのフローチャートを QR コードで追加して、その冊子のどこどこという形で引っ張ることが出来るような追加だけだったら、そんなにお金がかかるわけでもないと思う。追加添付してもらうことは可能だと思う。

【部会長】

・こども部会とか障がい福祉課が作っているものを見ながら検討して、協力して欲しいところには依頼をかけていきたい。

【城戸氏】

・第 3 回の居宅生活支援部会の場所は健康管理センターの予定。
第 4 回の日付は 2 月 5 日に変更とさせて頂きたい。本日の部会を終了する。

以上